

令和3年度学校自己評価システムシート (県立ふじみ野高等学校)

目指す学校像	学習とスポーツ・文化活動を両立し、地域に元気・感動・夢を発信する学校
--------	------------------------------------

重点目標	1 基礎学力の向上と授業の充実 2 基本的生活習慣と規範意識の質的向上 3 キャリア教育の充実と進路実績の向上 4 部活動・生徒会活動・ボランティア活動の充実と発展
------	---------------------------------------------------------------------------------------------

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	4名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					年度評価(1月27日現在)		
年度	目標	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	現状 95.1%の生徒が授業に意欲的に取り組んでおり、88.0%の生徒が、授業内容を理解している。家庭学習時間を1~2時間、2時間以上確保している生徒は、調査前では71.8%であるが、普段では16.5%である。 課題 ・ICTを活用した授業改善を継続する。 ・全教員の共通理解の下進路実現を目指すし、家庭学習習慣の定着を図り、基礎学力向上に向け授業改善に取り組む。 ・授業確保に努める。 ・学校行事の精選を推進する。	主体的に学習に取り組む基礎学力の向上が図られる授業改善の推進。	①ICT機器の活用、アクティブラーニング等の手法を取り入れた授業改善、研究協議を実施し、授業力を向上させる。 ②学習アプリの活用を含め、家庭学習習慣の定着を進める。 ③3年間を見通して英検IBA等の各種検定に全校体制で取り組む。 ④行事日程を精選し、可能な限り授業を確保する。	①タブレットやプロジェクター等のICT機器の活用状況 ①アクティブラーニング研究授業や教科研究授業の実施状況 ②学習アプリの活用状況 ②平時の家庭学習時間0時間の生徒の割合 ③各種検定の実施状況と受検者数及び合格状況 ④行事日程の工夫 ④授業カウント表の作成、チャイムトゥチャイム着席の割合	全教員の共通理解の下、ICTを活用し基礎学力向上のため授業改善に取り組んだ。 ①9月分教登校のオンライン授業実施によりICT機器活用が進んだ。未来学び研究開発員が年3回研究協議を実施。②学習アプリ「モリグサ」活用により英語基礎力が向上し今後も継続指導。③0時間は全体で45.3%と微減も一層の改善が必要。④英検受検61名と倍以上増加(2級1名他11名合格)、漢検受検16名(準2級2名合格)、英検IBA 5/31全校実施。進路実現に向け環境を充実。④保護者アンケート「学校は小テスト実施等で学習習慣の確立に取り組んでいる」94.6%生徒アンケート「わかりやすい授業をしている」90.7%	A	ICTの積極的な活用が進んだ中、来年度は指導環境の充実や効果的な活用をさらに進め授業改善につなげる。 学習習慣の定着や学習意欲の向上のための工夫を行うとともに、学習アプリの活用や検定の受検機会を確保し主体的な学習による学力向上に引き続き取り組む。 新学習指導要領実施にあたり各教科において指導の充実や新たな学習評価について連携しながら工夫・改善に取り組む。
2	現状 出席状況、身だしなみ、清掃活動、自転車通学者の交通マナー等の基本的生活習慣等は良好であるが、一部の清掃区域については改善が必要である。 課題 ・生徒の規範意識を更に高めるため、継続して生活指導を行っていく必要がある。 ・コロナ禍で生徒の不安が高まっているため、生徒との面談機会を増やし、相談体制を強化する必要がある。	主体的な規範意識の醸成と教育相談体制の充実。	①生活指導、交通安全マナーアップ、校内環境美化を徹底する。 ②年間を通じて遅刻指導を継続し、特定期間を重点的に指導する。 ③二者面談、三者面談の実施、スクールカウンセラーの活用等、生徒の悩み、不安を解消するため組織的に教育相談を実施する。	①通学指導を年8回実施 ①交通安全教室及び自転車点検の実施 ①校内清掃状況 ②出席率99%以上、皆勤者数60%以上 ③学校評価アンケートの分析 ③SCの相談件数、個人面談の実施状況	継続的に生活指導に取り組み、生徒の規範意識を向上させるとともに、SC・SSWを活用した相談体制を整えた。 ①通学指導を年7回実施(9月は中止)スマホ・ケータイ安全教室4/13実施 ①交通安全教室12/22実施、自転車点検3回実施 生徒アンケート「マナーや交通マナーの順守」95%、①生徒アンケート「校内美化に努力」86%、保護者「清掃行き届いている」86.7% ②出席率99.1%(12/24現在)皆勤者数300名51.5%(12/24現在) ③アンケート「学校は相談しやすい雰囲気、環境を整えている」生徒76.6%保護者84% ③SCの相談件数 45件 SSWの相談件数 10件	A	学校生活における規範意識や集団におけるマナー意識を一層向上させる。生徒の主体的な行動により学校生活の充実、校内美化、安全な登下校を推進する。 生徒それぞれの状況を丁寧把握し、悩みに応じた対応をSC、SSWや関係機関と連携しながら相談体制を充実させる。
3	現状 生徒一人一人の進路希望に応じた進路指導が行われ、3年間を見通した進路指導により生徒の希望している進路実現ができていく。 課題 ・模擬テスト等の実施の効果を高めるため、継続して職員研修会を実施する必要がある。 ・学校行事を精選するとともに、進学補講を組織的に進め、学力向上に努めていく必要がある。 ・進路行事(学年別進路説明会、模擬面接会等)を更に充実させる。	進路意識の向上と高い志を育み第一志望を実現する。	①上級学校への進路実現に向けた補講や補習、対策講座を組織的に行う。 ②3年間を見通して各種ガイダンス、模擬テスト等を実施するとともにその結果を踏まえた研修会を実施する。 ③保護者対象の進路説明会、PTA参加の進学・就職模擬面接会等を実施し、保護者・生徒の進路意識を高める。 ④進路意識を高めるための面談を実施する。	①進学補講、補習、対策講座の参加者状況 ②学校幹線就職率100% ②進路関係情報の提供回数 ②模擬テスト等の振り返り状況 ③保護者アンケートの分析 ③模擬面接等の実施状況 ④進学や就職に向けた面談の実施状況	進学補講や保護者対象の進路説明会等を実施し、生徒の希望する進路を実現させた。 ①国語・数学・英語で夏季3講座23名、冬季12名参加、模擬面接指導(就職27名、進学64名)、小論文指導42名 ②学校幹線就職率100% ②模擬テスト校内3回実施、外部模試(希望者のべ15名)3回実施 ③保護者アンケート「きめ細かな進路指導」86%「十分な進路情報提供」79.3% ③保護者対象説明会、模擬面接会 ④新学期当初に二者面談、6月三者面談、必要に応じて随時実施	A	第一志望の進路実現のため生徒の主体性・意欲を伸ばし、各学年において段階に応じた効果的な進路指導・キャリア教育に取り組む。 進学・就職ともに適時に必要な進路情報を生徒・保護者に十分に提供し、希望実現に向けた面談や補講等の受験対策を充実させる。 模擬テストでは3年1学期に進路希望に応じたテストを受験できるようにする(選択制の導入) ふじみ野市と連携した就職模擬面接会、近隣大学と連携した進学模擬面接会を来年度も実施していく。
4	現状 大会規模の変更はあったが多くの部活動が入賞を果たしている。 ・コロナ禍の中で、従来通りの地域との交流や連携・ボランティア活動が実施しにくい状況がある。 課題 ・継続して各部活動の充実を図る。 ・地域連携・教育連携の在り方を検討し、工夫・改善する必要がある。 ・学校からの情報発信を地方放送局を活用するなど更に積極的に行う必要がある。	目標にチャレンジする強い意志と支え合う豊かな心の育成と本校の魅力の情報発信。	①外部指導者を活用するとともに、科学的、効果的に練習を行い、上位大会に出場させる。 ②交流、ボランティア等、地域における事業の在り方を検討し、生徒・教員を積極的に派遣する。 ③学校説明会・中学校訪問・塾訪問、視察等の受け入れについて検討し、工夫改善し実施する。 ④Google Classroom、生徒の活動のホームページ掲載、一斉メール配信システム等を有効活用する。 ⑤地方放送局を活用した広報活動を継続して実施する。	①部活動実績 ②地域交流等の派遣回数と参加生徒数 ③中学校訪問・塾訪問・視察等の受け入れ実施状況 ④Google Classroomの活用状況、ホームページの更新回数、メール配信の回数 ⑤地方放送局を活用した広報活動状況	部活動や生徒会活動に熱心に取り組み、HPで本校の魅力を発信した。 ①全国・関東大会出場、県大会上位入賞等、練習成果を発揮できた。②地域との交流活動は中止したが各種地域連携を実施。大東大教育実習生17名研修受入れ。③倍率確保に向け職員一丸となり生徒募集に取り組んだ。中学校訪問62校×2回、塾訪問15校×2回(6月、11月)④全HR、全教科でゲームを開設しオンライン授業や課題等に活用。本校HPふじみ野高校NEWS37回更新、メール配信39回 ⑤地方放送局(発するFM)で毎週木曜日夜に放送、累計DL数13126(本校HP内)	A	充実した部活動・生徒会活動・ボランティア活動・多様な体験活動のため、地域や外部との連携や活動内容の一層の工夫を進める。 本校の特色や魅力を地域に効果的に発信するため、引き続き生徒募集活動の改善を進め、HP等を活用した情報発信を積極的に行う。

学校関係者評価
実施日 令和4年2月28日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>○ICT機器を活用して生徒の実態に合った授業が行われている。一層活用し学習意欲の向上や取組の充実につなげてほしい。</p> <p>○英単語学習アプリの活用は家庭学習に十分取り組めていない生徒にとって有効な手段である。各種検定も学校実施で希望する生徒が増えてくるのではないかな。</p> <p>○家庭学習習慣については定着しきれていないので更なる改善が必要と思われる。</p> <p>○小テストなど小さな取組を積み重ね、生徒それぞれの状況に合った指導により学力向上を図ってほしい。</p> <p>○近隣の通学路でも生徒がきちんと挨拶をしている。</p> <p>○自転車で通学する生徒が多いので、自身の安全だけでなく加害事故にも気をつけるよう今後も指導を継続してほしい。</p> <p>○コロナの影響で悩みの多い生徒や不登校の生徒が増えている。保護者との連携を密にして目標を設定し計画的に登校刺激を与えていく必要を感じている。関係機関と連携しながら課題解決を図ってほしい。</p> <p>○本校の生徒には、校外外を問わず、行動・マナーや言葉遣いに気をつけて、地域の方々にも誇れるような意識をもってほしい。</p> <p>○生徒が、小さな事でもすぐ相談がしやすいような環境づくりに取り組んでほしい。</p> <p>○1年生の早い段階から卒業後の進路について意識させ、考えさせることが重要である。「進路パスポート」を継続して活用し中学校の進路指導を高校につなげて指導できると良い。</p> <p>○学校の努力で進路意識は向上していると思われる。これまでの取組の課題や反省点を今後活かして、一人でも多くの生徒が第一志望に進めるよう引き続き指導してほしい。</p> <p>○希望の進路に合った学習や取り組みやすい環境づくりをお願いしたい。進学や就職の志望先の情報が十分にあると良い。</p> <p>○生徒アンケートで「部活動や生徒会活動に休まず参加している」で8割以上が当てはまると回答しているのは素晴らしい。インターハイや関東大会出場など良く努力している。</p> <p>○SS科については専門学科として目指すものは多くあるだろうが、スポーツの楽しさを味わえる授業が実施され、そのことが中学生に伝わると良いアピールになると考える。</p> <p>○FM放送は良いPRの場であるが、認知されていないので、もっとアピールすべきである。</p> <p>○部活動はどの部も盛んに活動している。</p> <p>○引き続き地域や外部と連携を図ることで、生徒の考え方や心が豊かになると考える。</p>